

## 令和5年度第1回岡崎市放課後児童クラブ支援員研修会レポート

【日時】 2023年(6)月(9)日(木)9時30分～11時30分  
【会場】 岡崎市役所福祉会館6階大ホール  
【内容】 「配慮が必要な児童への育成支援について」  
【講師】 1日目：木全和巳さん(日本福祉大学)、2日目：佐々木将芳さん(静岡県立大学)

【クラブ】( あおぞらクラブ )

【名前】( 花田 幸奈 )

本日の研修で心にのこったことや気づいたことや学んだこと、今後の実践に活かしていきたいことなど、感想もふくめてお書きください(自由記述)。

今回の研修では、自分のクラブに通う2年生の男の子についての事例を取り上げていただき、それをもとに他の学童保育の指導員のみなさんで検討を行っていただきました。

研修の中で講師の先生がおっしゃっていた「言葉に頼りすぎてしまうと苦しくなる」という言葉を聞いて、まさに自分がこの子に対して、知らず知らずのうちにできてしまっていたことだと気が付きました。普段はどちらかというとおしゃべりで、発語も多いという姿があっても、怒ってしまった時に理由を話そうとしない彼を見て、「話したくない理由は何だろう?」と考えることの方が多かったような気がします。「うまく自分の言葉で話せない」、「あえて口に話さないので話さない」この2つは大きな違いだと思います。「うまく自分の言葉で話せない」のだとすれば、「何に怒ってしまったの?」と本人の言葉のみで説明を求めるとするのは、講師の先生のおっしゃっていた“言葉に頼りすぎる”という部分に当たるのだと思いました。言葉に頼りすぎず、表現や表情など、言葉以外の手がかりとなる部分をまずは見つけることができるといいなと思いました。そうしていくうちに、「こうかな?」「あぁかな?」と彼の感情に近い言葉を大人が「代弁」してあげられるようにしていきたいと思います。

またこれまで、何事も完璧でないといけないと思っている彼に、ありのままの自分を肯定する言葉がけがあまりできていなかったことや、2年生になり下の学年が入ってきたことで、余計にその思いを抱えすぎていたかもしれないということに振り返って気づくことができました。今回の事例に限らず、子どもたちには、できないことがあってもいい、頑張れない日があってもいい、大人だって失敗することもあるんだよということを伝えていけたらいいなと思います。

講師の先生のお話から、日々の自分の保育を思い返し、気づきや学びを得ることができ、感謝しています。ありがとうございました。

※提出されたレポートは、当会のホームページや広報誌に掲載する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

※切は、研修終了後、2週間以内です。常勤・専任指導員に手渡し、または、okazakigakudou@yahoo.co.jp までお送りください。